

講演会から広がる学び

「人権文化をすすめる市民運動」推進強調月間である8月に、市内7会場で人権講演会を開催しました。

講演では、アイヌ文化やチベット文化、多文化共生、インターネットと人との関わり、防災、障害のある人の挑戦など、さまざまなテーマを取り上げました。一見すると、人権とは少し離れたように感じるテーマもあったかもしれませんが、しかし、いずれの講演も、一人一人の違いや思いを知り、自分とは異なる立場の人の気持ちや考えを想像するという、人権を考える上で大切な視点がありました。

今回、講演会に参加した方から「講演を聞いて本当に勉強になった。来年は友だちも誘って一緒に参加したい」と声が寄せられました。この言葉から、講演会で知識を得るだけでなく、「もっと知りたい」「誰かと一緒に考えたい」という思いにつながっていることが分かります。



一人の学びが家族や友達、そして地域へと広がっていくことに、「人権文化をすすめる市民運動」の大きな意味があるのではないのでしょうか。

私たちの身の周りには、人権について考える機会がたくさんあります。相手の話に耳を傾けること、一人一人の違いを知り、理解を深めること、困っている人に気付くこと、自分の中にある思い込みに気付くこと。こうした気付きや行動が、人権を大切にするまちづくりにつながります。

この夏、各会場で生まれた「知る」「気付く」「考える」という学びが、これからの暮らしの中で生かされ、次の誰かへとつながっていくことを願っています。

市長からの手紙
— 西脇を元気に!! —

153



「家族」を表す手話をする片山市長と社会福祉課の職員

手話が「共生社会」への一歩
西脇市手話言語条例は、制定から10周年を迎えます。この条例は、手話を言語として認め、手話が必要とする人が安心して暮らせるまちを目指すものです。市では西脇市聴覚障害者協会などの皆さんと連携し、手話の普及と理解促進に取り組んできました。その節目の年に、嬉しいニュースがありました。大阪・関西万博で、手話を取り入れた多彩な衣装のファッションショーを披露し、高い評価を

得た西脇高校生が「第13回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」への出場を決めました。全国から49チームがエントリーする中、本大会に出場する16チームの一つに選ばれたのです。初出場の快挙です。大会には秋篠宮家の佳子さまも出席され、西脇高校生は播州織の衣装を身にまとい、手話を取り入れた「誰もが輝けるファッションショー」を披露しました。毎年鳥取県で開かれるこの大会は、高校生が手話の魅力を発信し、交流を通して共生社会への理解を深める貴重な機会です。万博で世界に届けた「誰もが輝ける」という思いを、今度は手話を通じて全国へ広げた西脇高校の皆さんに、心から敬意を表し、エールを送ります。手話は誰もが使える言語です。まずは手話に触れ、知ることから始めてみませんか。手話があることを当たり前に感じられるまちを皆さんと築いてまいります。

西脇市長 片山象三



緑風台窯跡（発掘調査時）



四耳壺出土状況



緑風台窯跡から出土した四耳壺（つばの肩にふたをするためのひもを通す耳状の突起を四つ付けたつば）は、中世の中国製白磁四耳壺を模倣した瀬戸焼や、つばの特徴から常滑焼など東海地方の影響を強く受けています。四耳壺を含め、窯跡から出土した土器は、兵庫県内で作られた最古の陶器です。丹波焼より古く、十二世紀末までさかのぼります。窯跡には東海地方特有の燃焼効率を高める分焰柱（ぶんえんちゅう）という設備があり、西日本で唯一確認されていることから、窯跡と出土遺物は県指定文化財となっています。四耳壺は郷土資料館で展示しており、窯跡も緑風台古窯陶芸館（要事前予約）で公開しています。

四耳壺（緑風台窯跡出土）

ふるさとの魅力再発見—にしわき歴史探訪

85

▼問合せ 郷土資料館（☎23-5992）

みんなでまちづくり—市民の皆さんのまちづくり活動—

日本のへそで、人と人をつなぐ

～市民提案型まちづくり事業採択団体「cotocoto」の紹介～

cotocotoは、移住者やUターン者が地域で孤立せず、安心して暮らせるような居場所づくりに取り組んでいます。

メンバー自身も移住後に孤独を感じた経験があります。だからこそ専門家ではなく同じ市民の立場で、誰もが気軽に行ける身近な窓口を目指しています。

お茶会や、YouTubeを見ながらゆるっとヨガを楽しむ会、自由に参加できる「雑談型の交流会」などを開催しています。暮らしや子育て、仕事の悩みなどを気軽に語り合い、寄せられた声を地域活動や支援につなげていきます。



世代や地域を超えて人々が「ゆるっとごちゃまぜ」に、心地よくつながる温かな輪を広げています。

詳しくはこちら▶



西脇の自然 631

アトリ

アトリ科



夏はシベリアの森林地帯で繁殖し、秋になると南下して中国や朝鮮半島、日本に渡ってくる冬鳥です。胸部は鮮やかなオレンジ色で、黒と白を加えた羽色を持つ小鳥です。

群れで行動し、地面に下りて餌をついばみます。市内では電線や木の枝に集団で止まっているところを見かけることがありますが、スズメやカワラヒワほど頻繁に見られる鳥ではありません。それだけに見つけたときには「あ、アトリや!」とうれしくなります。

夕方、ねぐら入りのときには数千から数万の個体が集まって飛び交うこともあるので、一度見てみたいものです。

この冬もたくさんのアトリが渡ってきて、冬を越えるような豊かな自然が残されていますように。

【西脇市動植物生態調査研究グループ】